

## 第4回 軽金属女性未来賞受賞者表彰

軽金属女性未来賞は、軽金属分野において学術研究または技術開発に顕著な功績をあげ、将来の活躍が期待される新進気鋭の女性研究者または女性技術者に贈られるもので、平成21年度に創設された。軽金属女性未来賞選考委員会（委員長 伊藤吾朗）の審査を経て、9月26日（水）に開催された一般社団法人軽金属学会第11回理事会において慎重審議の結果、下記のとおり1名の授賞を決定、軽金属学会第123回秋期大会第1日目の11月10日（土）に千葉工業大学において表彰式を挙行了。

### 受賞者



三浦 永理 君  
(兵庫県立大学)

### 表彰理由

三浦永理君は、主としてチタン合金を中心としたバイオマテリアルの開発に長年取組んでおり、最近では高温酸化皮膜形成特性を利用したチタン合金の歯科応用に関する研究や、チタンと生分解性セラミックスや高分子材料との複合化によるインプラント材料の機能性向上に関する研究など、異種材料との複合化による機能性向上や力学特性の改善に関して成果をあげている。また、界面反応メカニズムが議論となっていたチタン/陶材焼付材料において、独自の実験手法で界面反応メカニズムと剥離部位を明らかにし、界面への金被膜による反応相の成長抑制とそれによる耐剥離性の改善の可能性を示した。生体材料分野以外では、航空機用複合材料の加工用アルミニウム/セラミックス傾斜機能砥石やマグネシウム基傾斜機能材料の開発に携わるなど、軽金属分野への貢献度は高い。

男性研究者が多数の日本の大学において、精力的な研究活動を継続する女性研究者の一人であり、後続の若手女性研究者にとって、ロールモデル的存在として今後ますますの活躍が期待される。